

平成30年1月31日

平成30年度当初予算（案）の概要

上水道事業会計 工業用水道事業会計



千葉県水道局

管理部財務課
電話 043-211-8547

平成30年度当初予算案のポイント

I 上水道事業会計

予算編成の考え方

来るべき人口減少社会、給水収益の伸び悩み、水道施設の更新需要の増大等、近年、大きく変化する経営環境の中、県営水道事業は「いつでも、安全でおいしい水を安定して供給し、お客様が安心し、信頼を寄せる水道」を基本理念に、安定水源の確保、浄・給水場や管路等の整備・更新、危機管理体制の充実等に計画的に取り組んでいます。

平成30年度当初予算についても、①「強靱」な水道の構築、②「安全」な水の供給、③お客様からの「信頼」の確保という中期経営計画の3つの基本目標に沿って事業を推進し、給水区域内300万人のお客様に、安全でおいしい水を、24時間365日途切れることなく供給していきます。

水をつくり供給する営業活動等の**収益的支出**と施設整備のための**資本的支出**を合わせた**支出予算総額**は、**1,324億33百万円**であり、前年度の**1,277億64百万円**に比べ**46億69百万円増**となっています。

収益的収支の**純利益**は、前年度に比べ**1億8百万円減**の**61億53百万円**となります。

基本目標ごとの重点事業

基本目標1 「強靱」な水道の構築

○**铸铁管更新工事（小中口径管）** 予算額 **191億79百万円**（H29 184億6百万円）
[債務負担行為 **54億円**（H29 40億74百万円）]

東日本大震災による管路破損等の教訓を踏まえ、湾岸埋立地域の管路の更新を優先的に進めていきます。また、工事発注量の平準化を図るため、債務負担行為を増額します。

布設延長 75.5km（H29 73.7km）

[うち湾岸埋立地域 25.9km（H29 25.0km）]

○ちば野菊の里浄水場（第2期）施設整備事業

予算額 **93億68百万円**（H29 44億34百万円）

老朽化が進んだ栗山浄水場から、近接するちば野菊の里浄水場に機能を移転し、併せて高度浄水処理機能を導入するため、施設の本体整備工事を実施します。

総事業費 約446億円（事業期間 平成24年度～34年度）

事業計画 平成28年度～34年度 本体整備工事 平成35年度 稼働予定

○水源の安定化 予算額 20億 6百万円 (H29 14億81百万円)

国から暫定的に割り当てられている水源への依存を解消し、安定した自己水源を確保するため、八ッ場ダム建設事業に引き続き参画していきます。

○浄水施設の覆蓋化 予算額 11億10百万円 (H29 11億89百万円)

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控える中で、異物混入などのリスクに備えるため、沈でん池やろ過池等の開口部を有する施設の覆蓋化を実施します。

基本目標2 「安全」な水の供給

○高度浄水処理の拡充 予算額 25億66百万円 (H29 16億59百万円)

水質が良好とはいえない原水に対応するため、高度浄水処理システムの導入を推進し、より安全でおいしい水道水を供給していきます。

○おいしい水づくりの技術的な取組

予算額 5億28百万円 (H29 3億63百万円)

きめ細やかな塩素管理が可能な塩素多点注入方式の導入と残留塩素濃度低減化試験の実施により、安全を確保した上で多くのお客様が塩素臭を感じないレベルを目指していきます。

基本目標3 お客様からの「信頼」の確保

○上下水道料金徴収一元化の推進 予算額 5億96百万円 (H29 9億70百万円)

平成30年1月から当局と4市との間で実施している上下水道料金徴収の一元化について、円滑な運用を行うとともに、未実施の7市にも早期の参加を働きかけ、お客様サービスの一層の向上に努めていきます。

○「お客様の声」を生かした事業運営 予算額 62百万円 (H29 63百万円)

水道水への信頼と安心、そして事業への御理解・御協力をいただけるよう、事業の情報をお知らせする広報活動とお客様の声を伺う広聴活動の充実を図ります。

(参考)

1 予算のすがた

(単位:百万円)(税込み)

区 分	30年度 当初予算案 ①	29年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収 益 的 収 入	81,283	80,113	1,170	1.5 %	給水収益 64,701 給水申込納付金 4,353 長期前受金戻入 7,432
	収 益 的 支 出	72,198	70,881	1,317	1.9 %	人件費 5,623 委託料 8,537 減価償却費 27,038
	収 支 差	9,085	9,232	△147		
	消費税資本的 収支調整額等	△2,932	△ 2,971	39		
	純 利 益	6,153	6,261	△108	△1.7 %	
資 本 的 収 支	資 本 的 収 入	23,953	25,242	△1,289	△5.1 %	企業債 19,000 国庫補助金 922
	資 本 的 支 出	60,235	56,883	3,352	5.9 %	建設事業費 47,589 企業債償還金 12,311
	収 支 差	△36,282	△ 31,641	△4,641		
支出予算総額		132,433	127,764	4,669	3.7 %	

※資本的収支における 36,282 百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金（減価償却費など）で補てんします。

2 企業債残高の状況

平成30年度末の企業債残高は、前年度に比べ66億89百万円増加し、1,486億7百万円となる見込みです。

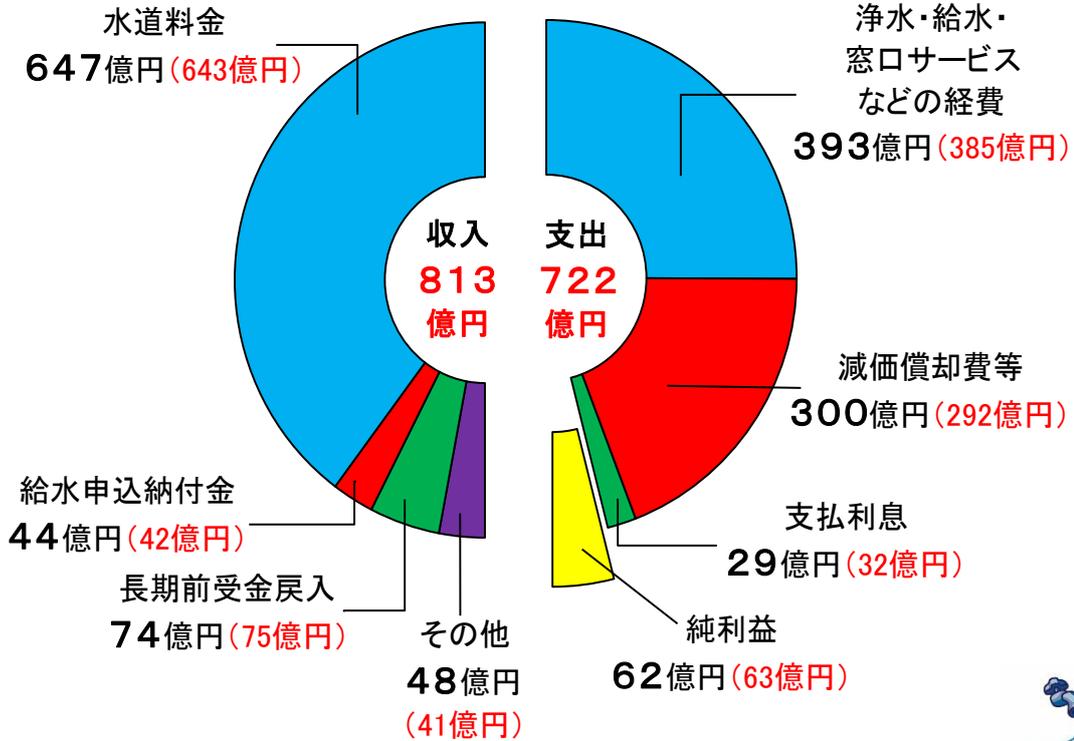
(単位:百万円)

29年度末残高見込 A	30年度当初予算案			30年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
141,918	19,000	12,311	6,689	148,607

収益的収支

事業の管理・運営にかかわる収支です。

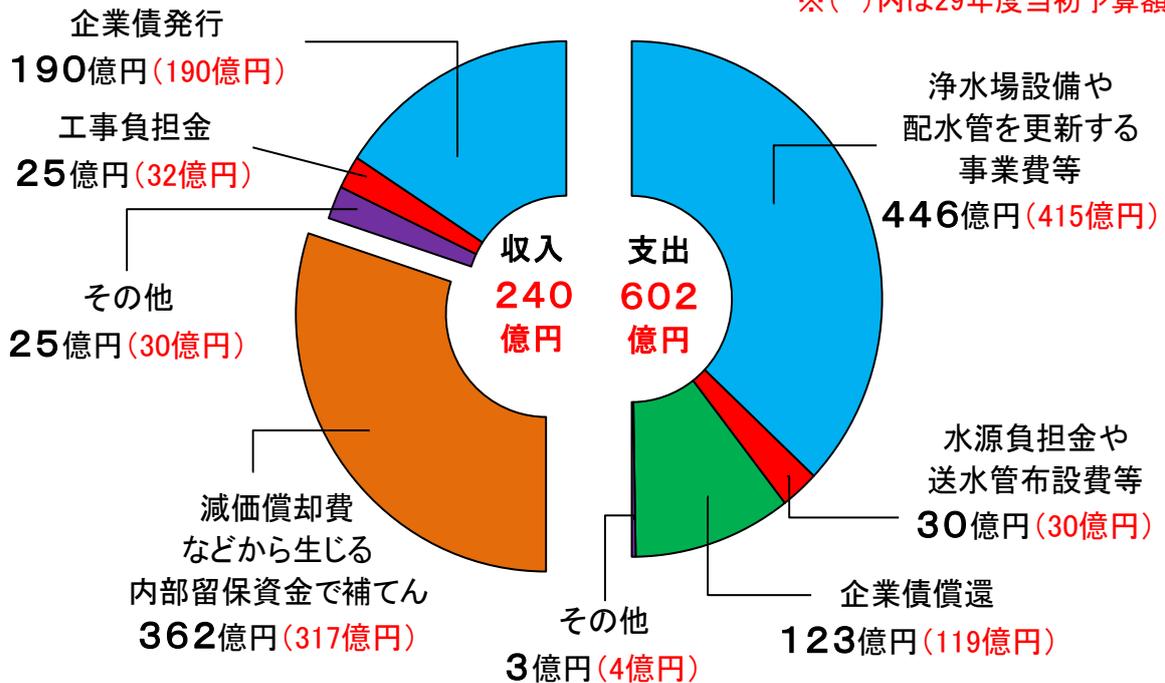
※()内は29年度当初予算額



資本的収支

施設の整備・改良にかかわる収支です。

※()内は29年度当初予算額



Ⅱ 工業用水道事業会計

予算編成の考え方

創設から半世紀が経過した本県の工業用水道事業においては、施設の老朽化への対策や大規模地震の発生に備えた耐震対策が急務となっていることから、計画的に施設の更新・耐震化を進め、引き続き本県の産業競争力の維持・強化に貢献していくことが求められています。

そのため、平成30年度当初予算については、持続可能な工業用水道事業の構築と安定的な工業用水の供給を目指して策定された「千葉県工業用水道事業施設更新・耐震化長期計画」（平成30年度～69年度）の着実な実施に向け、必要な予算を計上します。

水をつくり供給する営業活動等の**収益的支出**と施設整備のための**資本的支出**を合わせた**支出予算総額**は、**206億13百万円**であり、前年度の**205億35百万円**に比べ**78百万円増**となっています。

収益的収支の**純利益**は、前年度に比べ**1億29百万円増の3億9百万円**となります。

重点事業

○給水料金収入等の確保 予算額 117億96百万円（H29 117億 1百万円）

7地区で延べ281社に対し工業用水を供給します。

なお、千葉地区において料金改定（日量23円/m³⇒25円/m³）を見込んでいます。

○造成土地管理事業会計からの出資金の受け入れ 予算額 30億円（H29 30億円）

「施設更新・耐震化長期計画」の実施に向け、財務基盤の強化のため造成土地管理事業会計から30億円の出資を受け入れます。

・受入総額 300億円

・受入年額 平成27年度～36年度まで毎年30億円

○水源の確保 予算額 8億90百万円（H29 6億76百万円）

国から暫定的に割り当てられている水源への依存を解消し、安定した自己水源を確保するため、八ッ場ダム建設事業に引き続き参画していきます。

○施設更新・耐震化事業 予算額 14億91百万円（H29 1億31百万円）

「施設更新・耐震化長期計画」に基づき、老朽化したコンクリート管等の管路、浄水場等の設備の更新を行います。

(参考)

1 予算のすがた

(単位:百万円)(税込み)

区 分	30年度 当初予算案 ①	29年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収 益 的 収 入	13,585	13,430	155	1.2 %	給水料金 11,236 受水負担金 560 長期前受金戻入 1,549
	収 益 的 支 出	13,112	13,098	14	0.1 %	人件費 1,004 委託料 2,092 減価償却費 6,070
	収 支 差	473	332	141		
	消費税資本的 収支調整額等	△164	△152	△12		
	純 利 益	309	180	129	71.7 %	
資 本 的 収 支	資 本 的 収 入	4,175	4,691	△516	△11.0 %	企業債 656 国庫補助金 156 出資金 3,000
	資 本 的 支 出	7,501	7,437	64	0.9 %	建設改良費 1,984 貯水施設費 1,593 企業債償還金 2,689
	収 支 差	△3,326	△ 2,746	△580		
	支 出 予 算 総 額	20,613	20,535	78	0.4 %	

※資本的収支における 3,326 百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金（減価償却費など）で補てんします。

2 企業債残高の状況

平成30年度末の企業債残高は、前年度に比べ20億33百万円減少し、234億21百万円となる見込みです。

(単位:百万円)

29年度末残高見込 A	30年度当初予算案			30年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
25,454	656	2,689	△2,033	23,421

平成30年度当初予算案主要事業の概要

I 上水道事業会計

中期経営計画(計画期間：28～32年度)に掲げた3つの基本目標に沿って事業を推進します。

基本目標1 「強靱」な水道の構築

(1) 安定給水の確保

◎管路の更新・整備 260億 3百万円
(債務負担行為 97億96百万円)

○铸铁管更新工事(小中口径管) 191億79百万円
(債務負担行為 54億円)

東日本大震災による管路破損等の教訓を踏まえ、湾岸埋立地域の管路の更新を優先的に進めていきます。また、災害時の広域避難所や医療拠点等重要施設へ給水する管路、強度低下のおそれのある管路などについても更新を優先的に進めていきます。

布設延長 75.5km (うち湾岸埋立地域 25.9km)

○大口径管路更新工事 6億19百万円
(債務負担行為 30億 4百万円)

管径 500 mm以上の高級铸铁管を使用した路線について、管体強度、重要度及びバックアップの可否を評価基準とした優先順位に従い更新を進めていきます。

布設延長 0.1km

○基幹管路の整備(第二北総～成田線) 3億35百万円

より安定的な給水を確保するため、成田空港に供給している重要な基幹管路である北総～成田線について、別路線に新たな耐震管を布設し、二重化による整備を進めていきます。

布設延長 1.2km

○公共関連配水管整備工事 29億 4百万円
(債務負担行為 4億64百万円)

外環道や下水道等の公共工事に伴い、支障となる既設管路の移設等を行います。

外環道関連工事(布設延長 1.9km : 4億18百万円)

下水道等関連工事(布設延長13.7km : 24億86百万円)

◎浄・給水場施設の更新・整備 101億35百万円
(債務負担行為 59億74百万円)

老朽化が著しい浄・給水場等について、計画的な施設の更新・整備とともに、原水水質の変動や悪化に対しても、より一層の安全性を確保し、安定した水処理が行えるよう施設の改善を行っていきます。

○ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業 93億68百万円
(債務負担行為 34億77百万円)

老朽化が進んだ栗山浄水場から、近接するちば野菊の里浄水場に機能を移転し、併せて、高度浄水処理機能を導入するため、施設の本体整備工事を実施します。

整備規模 現栗山浄水場相当の18.6万m³/日
総事業費 約446億円
施設整備 薬品沈でん池、急速ろ過池、高度浄水処理施設
事業計画 平成28～34年度 本体整備工事
平成35年度 稼働予定

○福増浄水場水処理改善事業 4億26百万円
(債務負担行為 23億79百万円)

排水処理施設の能力改善等のため機械脱水施設の設置を行います。

◎浄・給水場設備の更新・整備 50億42百万円
(債務負担行為 48億30百万円)

安全でおいしい水の安定供給に重要な役割を果たしている浄・給水場の設備を中心に、経年劣化等の状況を踏まえた計画的な更新を引き続き実施していきます。

○取水場の設備更新工事 9億12百万円
(債務負担行為 20億75百万円)

○浄水場の設備更新工事 19億85百万円
(債務負担行為 22億50百万円)

○給水場の設備更新工事 15億34百万円
(債務負担行為 4億28百万円)

◎水源の安定化 20億6百万円

○ダム建設事業に係る分担金(ハッ場ダム) 14億34百万円

国から暫定的に割り当てられている水源への依存を解消し、安定した自己水源を確保するため、ハッ場ダム建設事業に引き続き参画していきます。

工期：昭和42年度から平成31年度 建設事業費の負担率3.3%

(2) 耐震化の推進

◎浄・給水場施設の耐震化の推進

5億55百万円

○浄・給水場施設耐震化工事

5億55百万円

安全でおいしい水の安定供給に重要な役割を果たしている浄・給水場の施設を中心に、耐震診断及び経年劣化等の状況を踏まえた耐震化を進めていきます。

◎管路の耐震化の推進

230億37百万円

(債務負担行為 88億68百万円)

○鋳鉄管更新工事（再掲）

191億79百万円

(債務負担行為 54億円)

○大口径管路更新工事（再掲）

6億19百万円

(債務負担行為 30億4百万円)

○基幹管路の整備（第二北総～成田線）（再掲）

3億35百万円

○公共関連配水管整備工事（再掲）

29億4百万円

(債務負担行為 4億64百万円)

(3) 危機管理体制の充実

◎緊急時に備えた体制の充実

2億16百万円

○危機管理体制の整備

2億16百万円

地震等の自然災害や事故の発生に備え、応急仮設給水栓の整備など応急給水体制の充実に図るとともに、復旧用資材の備蓄倉庫の増設工事等を行います。

◎浄水施設の危機管理対策の強化

11億10百万円

(債務負担行為 22億42百万円)

○浄水施設の覆蓋化

11億10百万円

(債務負担行為 22億42百万円)

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控える中で、異物混入などのリスクに備えるため、沈でん池やろ過池等の開口部を有する施設の覆蓋化を実施します。

基本目標2 「安全」な水の供給

(4) 安全な水づくり

◎高度浄水処理の拡充

25億66百万円

○ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業(高度浄水処理施設分：再掲)

24億73百万円

水質が良好とはいえない原水に対応するため、高度浄水処理システムの導入を推進し、より安全でおいしい水道水を供給していきます。

(5) おいしい水の供給

◎おいしい水づくりの技術的な取組

5億28百万円

お客様に安全でおいしい水をお届けするため、水源から蛇口まで一貫したおいしい水づくりを推進します。

○残留塩素濃度の低減化

5億 2百万円

残留塩素は、水道水の安全性を確保するために必要不可欠であるものの、高い濃度では水道水のおいしさを損なうことから、きめ細やかな塩素管理が可能な塩素多点 注入方式の導入と残留塩素濃度低減化試験の実施により、安全を確保した上で多くのお客様が塩素臭を感じないレベルを目指していきます。

・姉崎分場次亜塩注入設備更新工事（再掲） 4億72百万円

・連続測定装置による残留塩素濃度の測定 19百万円

◎安全でおいしい水キャンペーン

14百万円

水道水の安全性やおいしさについての情報がお客様に正しく伝わり、理解していただくことにより、水道水を安心して利用していただけるよう、体験型イベント等のキャンペーンを展開します。

・水道出前講座等の体験型イベントの開催、利き水体験の実施 等

◎お客様とのコミュニケーション

2百万円

お客様との連携・協力を図り、双方向コミュニケーションを充実させるため、お客様の意見・要望を踏まえながら、おいしい水づくりに向けた各種施策をより良いものとしていきます。

・おいしい水づくり推進懇話会の開催、水質検査体験の実施 等

基本目標3 お客様からの「信頼」の確保

(6) お客様サービスの推進

◎上下水道料金徴収一元化の推進

5億96百万円

平成30年1月から当局と4市との間で実施している上下水道料金徴収の一元化について、円滑な運用を行うとともに、未実施の7市にも早期の参加を働きかけ、お客様サービスの一層の向上に努めていきます。

◎「お客様の声」を活かした事業運営

62百万円

○お客様の視点に立った広報

59百万円

県営水道事業全般についてお客様の御理解、御協力をいただくためには、水道水の安全性やおいしさ、耐震化・危機管理対策の推進状況等をPRする必要があるため、広報紙「県水だより」、水道局ホームページをはじめ、新聞、テレビ、ラジオなどの各種広報媒体を効果的に組み合わせるとともに、各種イベント等との連携に努め、「伝える」広報を目指します。

・「県水だより」の発行、ペットボトル水「ちばポタ」製造等

○広聴活動の充実

3百万円

お客様の視点に立った水道事業の運営のためには、お客様のニーズを的確に把握することが不可欠なことから、お客様から直接御意見や御要望をお伺いできる機会を積極的に設けて広聴活動の充実を図ります。

・インターネットモニター及び各種イベントでのアンケートの実施等

(7) 大規模事業体の責務と社会貢献

◎資源リサイクルの推進

4億89百万円

浄水場の浄水処理工程において発生する汚泥については、セメント原材料等として引き続き、全量の再資源化を推進します。

運営基盤の強化

◎情報化の推進

15億 1百万円

県営水道では、幅広い分野で情報システムを活用しており、業務に必要な不可欠なものとなっていることから、情報システムの安定運用及び情報資産の安全性の確保を図ります。

II 工業用水道事業会計

1 給水料金収入等の確保 117億96百万円

7地区で延べ281社に対し工業用水を供給します。

なお、千葉地区において料金改定（日量 23円/m³⇒25円/m³）を見込んでいます。

(1) 給水料金 112億36百万円

- ・東葛・葛南地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16億95百万円
- ・千葉地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11億95百万円
- ・五井市原地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8億98百万円
- ・五井姉崎地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27億38百万円
- ・房総臨海地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29億65百万円
- ・木更津南部地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17億36百万円
- ・北総地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9百万円

(2) 受水負担金 5億60百万円

- ・房総臨海地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5億60百万円

2 造成土地管理事業会計からの出資金の受け入れ 30億円

「施設更新・耐震化長期計画」の実施に向け、財務基盤の強化のため造成土地管理事業会計から30億円の出資を受け入れます。

- ・受入総額 300億円
- ・受入年額 平成27年度～36年度まで毎年30億円

3 安定給水対策の推進 75億 1百万円 (債務負担行為 2億90百万円)

安定的な給水を図るため、水源の確保及び老朽化した施設の改築や耐震性の向上を図るための工事等を実施します。

- ・建設改良費（浄水場設備更新・送水管布設替等）・・・・・・・・ 19億84百万円
(債務負担行為 2億90百万円)
- ・水源の確保（八ッ場ダム負担金）・・・・・・・・・・・・・・・・ 8億90百万円
- ・水資源機構への償還金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2億37百万円
- ・企業債償還金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26億89百万円
- ・他会計借入金の返還金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8億50百万円

4 施設更新・耐震化事業（再掲） 14億91百万円
(債務負担行為 2億90百万円)

「施設更新・耐震化長期計画」に基づき、老朽化したコンクリート管等の管路、浄水場等の設備の更新を行います。

- ・送水管布設替工事（旭ヶ丘Ⅱ期） 4億30百万円
(債務負担行為 2億90百万円)
- ・袖ヶ浦浄水場電気設備更新工事 1億10百万円
- ・袖ヶ浦浄水場機械設備更新工事 1億90百万円
- ・人見浄水場排水処理施設更新工事 1億円